

EU 支部長: 松原真実子 MATSUBARA Mamiko

青森県八戸市出身 国際文化研究専攻修了 修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』
現在 大阪府 太成学院大学 勤務

e-mail: leoshironeko@yahoo.co.jp



この号の内容

- 1 イタリア エトナ山 噴火
-Etna volcano-
- 2 EU 支部だより

- ・過去20年間で最も激しい噴火
- ・今なお予断を許さない

イタリア エトナ山 噴火

-Etna volcano-(2015年12月4日 VOLCANO DISCOVERY)

12月3日から4日現在、イタリアのエトナ火山が3度にもおよぶ大噴火を起こした。これまで、1947年、1960年、1989年、1998年、1999年と、何度も噴火を繰り返してきたエトナ山であるが、今回の噴火は、過去20年間の中で最も激しい噴火といえる。

噴火の兆候は約1カ月前から始まっており、火口付近でのクレーターではストロンボリ式活動が確認され、日に日にその強度を増してきていた。2日までは爆発の規模が小さく肉眼での確認が難しかったが、3日、Webカメラでも観測できる規模となった。12月2日の夜、周期が短く数キロに及ぶ高い噴火が頻発。3日早朝3時20分から4時10分にピークを迎え、持続的な溶岩の噴火は1km以上の高さになっし、噴煙はジェット気流に乗り頂上から3Kmの高さにまで達していた。火山砕屑物を含んだ雲はリングアロッサ、フランカヴィラディシチリア、ミラッツオ、メッシーナ、レージョディカラブリアと各地の町まで到達した。

12月4日朝、再度大きな噴火が発生。特に8時40分、活動が激化。溶岩は、11Kmの高さにまで吹き上げられ風によって東方へと広がっていった。噴火は11時15分まで続き、その後、急速に沈静化した。ストロンボリ式活動は継続しており余談を許さない状況である。21時10分、再度激しい噴火がおきるも、21時55分ごろから沈静化している。現在、クレーターからの白熱放射は1日を通じてこれまで同様に発生し続けているため、今後も動向に注意が必要と思われる。

EU 支部だより —シチリア島とリノーザ島—

エトナ火山(エトナかざん、Etna)はイタリア南部シチリア島の東部にある活火山。旧名をモンジベッロという。ヨーロッパ最大の活火山であり、現在の標高は3,326mであるが、山頂での噴火により標高は変化する。1865年の標高はこれより21.6m高かった。アルプスを除きイタリアでは最も高い山である。山麓部の直径は140kmに及び、その面積は約1,190km²である。イタリアにある3つの活火山の内では飛び抜けて高く、2番目に高いヴェスヴィオ山の3倍近くもある。

私の夫は、シチリア島の近くりノーザという島に別荘をもっている。釣りが好きで先日もミラノから行ったようだ。そして帰ってきた直後、エトナ山の噴火。もし、噴火時に当たっていたら飛行機が墜落したのではないかと。そう思うと鳥肌がたつた。そんな私の心配をよそに、本人はいたって楽天的！んー！イタリア人の本質見たり！（松原）



- ・欧州最大の活火山
- ・イタリア人の本質見たり

